

環境研究総合推進費 S-18
気候変動影響予測・適応評価の総合的研究
公開シンポジウム

「気候危機」の現状と将来予測 —気候変動リスクに立ち向かう我が国の研究—

2020年11月12日(木)
13:30 - 16:00
オンライン開催・無料
定員 300名 (事前申込制)

ご挨拶 世界的な気候変動の影響の顕在化を背景にして、2018年に「気候変動適応法」が成立しました。その後、2019年の台風19号などの気象災害の激化などに対応して、自治体や企業でも適応策の立案・実施が必要とされています。国際的にも、新型コロナ問題への対策と並行して、パリ協定の実施など温暖化対策の進展が求められています。

環境研究総合推進費 S-18 研究プロジェクトは「我が国の気候変動適応の取り組みを支援する総合的な科学的情報の創出」を目的として、今年4月にスタートしました。プロジェクトでは、最新の科学的知見に基づく影響予測・適応策の効果の評価を深化させ、国内外の課題に応えていきます。

S-18 研究プロジェクトの開始に当たって、広く関係者の皆様方と議論するためオンライン・公開シンポジウムを企画しましたので、ご参加を頂ければ幸いです。

- 我が国における気候変動の影響、適応策の現状などを紹介します。
- S-18における気候変動の影響予測と適応策研究を紹介します。
- 自治体や企業、関連研究者の皆様と意見交換を行います。

S-18 プロジェクトリーダー 三村信男

参加受付 全ての方（登壇者も含めて）に氏名・所属・メールアドレス等のご登録をお願いいたします。

<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/201112s-18symposium/>

問い合わせ先

S-18 事務局
TEL: 029-297-3152
E-mail: s-18.sympto2020@ml.ibaraki.ac.jp

プログラム

◆ 13:30 開会

◆ 13:31 基調講演

気候危機の現状と S-18 の研究計画

三村信男

茨城大学

S-18 プロジェクトリーダー

◆ 14:00 講演 1

<我が国の適応策研究の現状>

国立環境研究所の

気候変動適応研究プログラムについて

脇岡靖明

国立環境研究所 気候変動適応センター

副センター長

自然災害に関する気候変動予測と適応戦略

中北英一

京都大学防災研究所

文科省・統合的気候モデル高度化研究プログラム

テマリーダー

気候変化予測研究から影響評価・適応研究
への流れ

若月泰孝

茨城大学

S-18 気候シナリオワーキンググループ

◆ 14:30 講演 2

<テマリーダーによる S-18 研究内容紹介>

農林水産業分野 (S-18-2)

白戸康人 農研機構

自然災害・水資源分野 (S-18-3)

横木裕宗 茨城大学

国民の生活の質 (QoL) とその基盤となる
インフラ・地域産業分野 (S-18-4)

栗栖 聖 東京大学

影響・適応の経済評価 (S-18-5)

日引 聡 東北大学

◆ 15:10 トークセッション

参加者の皆様と発表者で質疑応答、意見交換を行います。

◆ 16:00 閉会